

# ベートーヴェン・ピアノ・ソナタ

全曲演奏会シリーズ 最終回(全8回)

小菅

YU KOSUGE

BEETHOVEN PIANO SONATA CYCLE VOL.8

優

ピアノ・ソナタ第30番 ホ長調 Op. 109  
Piano Sonata No. 30 in E major Op. 109

ピアノ・ソナタ第31番 変イ長調 Op. 110  
Piano Sonata No. 31 in A-flat major Op. 110

ピアノ・ソナタ第32番 ハ短調 Op. 111  
Piano Sonata No. 32 in C minor Op. 111

2015年 3/21(土) 18:00開演  
(17:30開場)

紀尾井ホール

Saturday, March 21, 2015 at 6 p.m. Kioi Hall

全指定席 ¥5,000 主催: KAJIMOTO

チケットのお申込み

カジモト・イープラス 0570-06-9960

カジモト・イープラス 検索 <http://kajimotoeplus.com/>

※音声自動応答で承りますが、オペレーター(10:00~18:00)もご選択いただけます。  
ホームページからお申込みいただけます(パソコンもケータイも同じアドレス)。

チケットぴあ 0570-02-9999(Pコード: 244-910)

e+ (イープラス) <http://eplus.jp/>

CNプレイガイド 0570-08-9990

ローソンチケット 0570-000-407

紀尾井ホールチケットセンター 03-3237-0061



便利なケータイサイト  
もぜひご利用ください。  
iモード・EZweb・  
Yahoo!ケータイ 対応  
チケットもご購入  
いただけます。

0570で始まるナビダイヤル番号は、PHS、IP電話など一部の回線からは接続されない場合がございます。  
NTT加入電話、公衆電話などをご利用願います。



## 最終回によせて

小菅 優

ベートーヴェンとの旅もついに最後になりました。このプロジェクトは、私が20代から30代へ移り変わる音楽家として、また人間としての成長の大きな課題でした。そして私は聴衆の方々にベートーヴェンともっともっと親しんでいただきたいという気持ちでいっぱいでした。

旅をするにつれてベートーヴェンの葛藤が見えると同時に、自分にも葛藤があったと思います。偉大な作曲家の作品だからこそ、考え、深く掘り下げ、そして探る余地がたくさんあり、コンサートを重ね、録音をするたびに、発見がたくさんありました。

たとえば私の大好きな第7番のソナタの第2楽章は、細かいニュアンスを表出でき、歌えていても、全体のキャラクターが現れ出るまでに時間がかかりました。そうして、その楽章全体の厳しさ、深刻な訴えが最終的ににじみ出ることがいかに大事かがわかりました。

ベートーヴェンのメッセージを追求するためには、楽譜の細かい強弱の指示、ペダルの指示、そして楽譜に書いていないことまで、いかに深く読まないといけないか、ということが身にしみます。そしてベートーヴェンの世界に浸れば浸るほど、のめりこんでいき、この世界を表すためには、思考と感情とのバランスが大切だということも思い知らされました。前回の「ハンマークラヴィア」では巨大な作品を弾くこと、構成を考えることと同時に、究極とも言える苦しみの中、もがいているかのような感情の限界に自分を持っていき、そしてその先にある救済を味わうことによって、やっとこの曲に近づけた気がしました。

この「ハンマークラヴィア・ソナタ」の葛藤と複雑な展開の後、最後の三つのソナタが生まれるわけですが、その中にはたくさん脱皮をした後のような、ある意味原点に戻ったような、遠くから自分を見つめる余裕を感じます。今までの葛藤があったからこそ、こういうこの上なく素晴らしい結果があるんだ・・・私自身にはまだ未知の世界ですが、最大限に想像の羽を伸ばすと、そこには私が何十年も先に発見するであろう花の種子があるのではないかと思います。

...

## Profile

高度なテクニックと美しい音色、若々しい感性と深い楽曲理解で最も注目を浴びている若手ピアニストの一人。2000年にドイツ最大の音楽批評誌「フォノ・フォルム」より、ショパンの練習曲全曲録音に5つ星が与えられた。9歳より演奏活動を開始し、その足跡はヨーロッパ、米国、日本など年に40カ所以上に及ぶ。05年ニューヨークのカーネギーホールで、翌06年には、ザルツブルク音楽祭でそれぞれリサイタル・デビューを行い、大成功を収めた。

これまでにドミトリエフ、デュトワ、大植、ノリントン、オラモ等の指揮でベルリン響、フランクフルト放送響、シュトゥットガルト放送響、ハノーファー北ドイツ放送フィル、サンクトペテルブルク響、フィンランド放送響等と共演。ザルツブルクをはじめラインガウ、シュレスヴィヒ=ホルシュタイン等の国際音楽祭にも出演し着実に活躍の場を広げている。2010年にはザルツブルク音楽祭で、イーヴォ・ポゴレリッチの代役としてフィリップ・ヘレヴェツへ指揮カメラータ・ザルツブルクと共演し、絶賛を博した。2013年は服部譲二指揮ウィーン室内管と



©Marco Borggreve

このピアノ・ソナタの旅は最後になりますが、実はこれは新たな旅の始まりでもあります。これから私はベートーヴェンのピアノ付全作品を「人生の課題」として弾いていこうと思っています。この新たな旅の始まりを皆様と一緒にスタートさせたいです！

小菅 優 (ピアノ) Yu Kosuge, Piano

共演してウィーン・デビュー。そしてロンドンのウィグモア・ホールでリサイタルを行いロンドン・デビューした。また、2010年より東京、大阪で行っているベートーヴェンのピアノ・ソナタ全曲演奏会(全8回)が最終回を迎える。

録音は、最新盤の「ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ集第3巻『自然』」、「モーツァルト：ピアノ協奏曲第20番&第22番」、小澤征爾指揮水戸室内管との「メンデルスゾーン：ピアノ協奏曲第1番他」を含む13枚のCDをソニーより、その他にも、尾高忠明指揮オーケストラ・アンサンブル金沢との「モーツァルト：ピアノと管弦楽のためのロンド 他」(ワーナーミュージック・ジャパン)、ラデク・バボラークとの共演による「R.シュトラウス：ホルン&ピアノ作品集」(オクタヴィア)をリリースしている。

第13回新日鉄音楽賞、04年アメリカ・ワシントン賞、第8回ホテルオークラ音楽賞、第17回出光音楽賞、14年第64回芸術選奨 文部科学大臣新人賞を受賞。